

羅布麻の栽培を普及し、羅布麻産業を発展させる

李国旗¹、陳彦雲^{1 2}、朱莉²、万海霞²

1. 寧夏大学西北退化生態システム再建省・部共同建設教育重点實驗室生命科学学院

2. 寧夏大学

キーワード； 羅布麻、静態經濟型、人工栽培、光合成

主旨；

羅布麻は夾竹桃科に属する多年生宿根の直立草本植物で、生存期間は 30 年以上に達する。それは、塩分に強い適応性を持つ植物であるだけでなく、經濟的用途の多い資源植物でもあり、すべての部分が利用価値が高く、“砂漠の珠玉”と言われる。

まず、羅布麻は優良品質の自生纖維植物なので、“自生纖維の王”とも呼ばれる。耐磨性、耐腐性に強く、水による縮みが少ない特徴がある。麻の茎は纖維板や製紙原料となる。

次に、羅布麻は、現在国内外で臨床に広く利用されている羅布麻降血圧の製薬原料である。第 3 に、羅布麻の葉は蒸したり晒したりしてお茶を作ることができ、血圧の調整、免疫増強、衰弱緩和の効果がある。更に、羅布麻は良好な蜂蜜源植物で、質のいい蜜をたくさん供給するだけでなく、開花期間が長い。

第 4 は、羅布麻は中国の早尅荒漠地帯の主要な觀賞植物のひとつである。

羅布麻を人工栽培するためには、羅布麻の生理生態学的特徴を全面的に把握する必要があると考える。本報告では、羅布麻の温室での育苗技術の研究と羅布麻の栽培方式の研究を報告する。また、寧夏に分布する自生紅茶と白麻に対する光合成の研究を行うことで、これらの光合日の変化が全て典型的な二つのピークを持つ曲線であることが解り、明確な光合成の“昼休み”現象が現れ、二つの光合成速度率は、光合成の有効輻射の増加につれて、迅速に上昇した。3 年間の研究を経て、現在はずでに羅布麻の人工栽培技術を基本的に把握できた。従って、わが自治区では更に大面積の抗逆性の強い種類と価値の高い生態經濟型の植物を推し進めるべきである。